

「1面から」 社会を」というキャッチフレーズには、白川さんの生き様、人柄が現れている」「現場から、見抜く力のある人」「趣味、よう子、特技、よう子です」など、様々な温かい言葉が送られました。

医療や業者、保育など各分野からの切実な要求の発言の後、白川よう子参院比例予定候補はそれらの発言を受けて、これまで一緒に取り組んできた活動や激動の情勢について報告し、参加者は怒りや喜びの拍手をしながら聞き入りました。

参加者は「『今度こそ私が国政に行つて自公政治を変えてくる』という迫力と優しさのある話に元気をもらいました」「香川選挙区候補として初デビュー戦の長尾まさきさんのお話は初々しくて輝いている」「毎日のように『赤旗』でお会いしています、久々に生で姿を見て声を聞き、懐かしくて涙がでました」「本当に今度こそ国会へ行つてほしい。今まで言えてなかった人にも伝えます」などの感想が寄せられました。

集いの最後には、要求プラカードを掲げて写真撮影のあと「きつと、ようこそ国会へ」と替え歌を歌つて会を閉じました。

教育問題を考える 市民と教職員のつどい

藤森毅（党中央文教委員）氏が講演

6月15日、日本共産党教職員後援会は、高松市内において、日本共産党の文教委員会の藤森毅氏を迎えて、「教育問題を考える市民と教職員のつどい」を開催しました。教職員や市民ら約50人が参加し、会場はいっぱいで熱気あふれるつどいになりました。

藤森氏は、「子どもの不登校急増、止まらない教員の多忙化―打開の道を考える」という演題で講演しました。

「2面から」のブレイキとなる残業代不支給の給付法（公立学校教員給与特別措置法）も存続していることが問題だとして、国政の責任を批判しました。

最後に、子どもを真ん中に語り合い支え合つことが大切であること、子どもも親も教職員もあいつめてい

今の政治を変えましよう」と講演を締めくくりました。参議院比例予定候補の白川よう子さんは、昔先生になりたかったことや、高校

政治を大本から変えよう 小豆島でつどい 長尾候補が参加

日本共産党の長尾まさき参院香川選挙区予定候補は9日、小豆島を訪れ、自川よう子参院比例予定候補ら比例5議席の獲得と党躍進をめざし、小豆島町でのつどいに参加しました。福本耕太・土庄町議と鍋谷真由美・小豆島町議が情勢や党の政策を紹介しました。

長尾候補は「これまで『しんぶん赤旗』の記者として、多くの民主団体取材してきた。その中で、民営化や予算削減でさまざまな公共サービスが壊されている現場の実態を学んだ」と報告。「自公政権の大企業優遇やアメリカ言いなりの政治を大本から変えて、みんながご飯をきちんと食べられ、戦争や貧困、差別

疾病や子どもの不登校が急増しているが、不登校の子どもは心が傷ついていることを理解し、休息と回復の保障が必要であることや保護者も傷ついているので相談・交流する場と保護者離職を防ぐため「介護休暇制度」の見直しなど経済支援の必要性などを話しました。

また、教育政策の変化で学習内容や授業時数が増え、休み時間も削られ、学校から遊びと生活体験が奪われたことや楽しい授業より全

国学力テストの点数をとるために時間が費やされるようになったこと、一律にだめなことはだめという規律が強いられただけで急激な不登校の増加の要因と指摘。

教員の長時間労働は1966年と2022年を比べると残業時間が10倍以上になつていると述べ、業務量に対して教職員の数が不足し、学校5日制に移行しても教員の配置を増やさず、長時間労働【3面につづく】

スケートボード愛好者らが県に要請 長尾候補ら同席

高松市で唯一、スケートボードを利用できる公園「朝日グリーンパーク」の路面が痛んでいる問題で、スケートボード愛好者らでつくる「（同）路面の全面改修を求める会」は2日、早急に全面改修するよう香川県に要請しました。日本共産党の長尾まさき参院香川選挙区予定候補、樫沼二

代表の越智勇伍さんは「路面はあちこちひび割れ、亀裂が入り、大変痛んでいます。利用者からは『転倒

しやすい。けがをした人もたくさんいる。一刻も早く直してほしい』との声が寄せられています」と語りました。



「しんぶん赤旗」の記者として、多くの民主団体取材してきた。その中で、民営化や予算削減でさまざまな公共サービスが壊されている現場の実態を学んだ」と報告。「自公政権の大企業優遇やアメリカ言いなりの政治を大本から変えて、みんながご飯をきちんと食べられ、戦争や貧困、差別

なく平和に暮らせる日本にしたい」と語りました。

参加者は「熱い心で頑張つてほしい」と長尾候補らに期待を寄せました。

国学力テストの点数をとるために時間が費やされるようになったこと、一律にだめなことはだめという規律が強いられただけで急激な不登校の増加の要因と指摘。

教員の長時間労働は1966年と2022年を比べると残業時間が10倍以上になつていると述べ、業務量に対して教職員の数が不足し、学校5日制に移行しても教員の配置を増やさず、長時間労働【3面につづく】

ともに参院選挙勝利への決意を語りました。

その後、党香川県教職員後援会の総会を開き、参院選挙に向けた構えと体制を決めました。

